

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜本巣特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月11日(金) 13:15~15:15
- 3 開催場所 岐阜本巣特別支援学校 北館3階会議室
- 4 参加者

会長	神山 弘彦	西秋沢自治会長
副会長	山田 孝治	北方町商工会専務理事
委員	松本 和久	岐阜聖徳学園大学教育学部 特別支援教育専修教
	牛丸 真児	瑞穂市社会福祉協議会 福祉総合相談センター相談支援専門員
	森 久子	本巣市主任児童委員
	橋本 民子	本巣市障害者生活支援センター「えがお」
	板倉 寿明	愛知淑徳大学講師
	清水 美典	児童発達支援センターきらり 児童福祉支援室相談支援係 相談支援専門員
	藤田 佳正	本校PTA会長
	高橋 徳子	本校PTA副会長
学校側	神戸 茂 校長	上山 順子 事務部長
	牧村 貴志 教頭	福井 三和子 教頭
	松本 深香 小学部主事	原 和代 中学部主事
	瀬下 裕基 高等部主事	永井 久江 教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校評価アンケートの結果について

- ・全体の評価について、分析、課題と今後の取組について報告した。
- ・各部主事より、各学部について報告した。

意見1:アンケート結果をふまえてホームページを見ると、去年の更新で止まっているページがある。個人情報の問題はあるが、ホームページの更新に力を入れてほしい。(複数)

意見2:「わからない」という意見が意外と少なかった。今年度は久しぶりの授業参観があり、教職員の熱心な取組が伝わった。そういう機会を通して児童生徒の様子が保護者にもっと伝わるとよい。

意見3:サッカー部の元気な声が地域に聞こえる。部活の様子等も学校だよりに載せるとよい。

意見4:ホームページがあっても、実際に見ていない保護者がいる。通信等の文面だけでは伝わらない部分もある。アンケートは、毎年児童生徒の入れ替わりがあるので、昨年度の結果との比較が保護者の思いをそのまま反映しているとは限らない。

意見5:3障がい併置、小学部から高等部等幅広い分、支援が多岐にわたるため、工夫されていることがわかった。進路については就労に対してだけでなく、年金や親亡き後等将来に向けての支援をされるとよい。

⇒ 先日、保護者向けに、成年後見制度のオンライン研修を行った。

意見6:教職員が行う業務は膨大な量だと感じた。教職員が丁寧な取組をしても、保護者が「わからない」「あまりあてはまらない」と答えるのは、伝え方に課題があるのではないか。

意見7:アンケートに備考欄があれば、潜在的な意見を聞くチャンスやヒントになるかもしれない。学校の取組については、行事の数はコロナ禍により〇個に減ったが、感染対策をして研修の機会を〇回に増やしたとか、具体的に数を示すとわかりやすさに繋がる。

⇒ 具体的な取組を保護者に提示してから、アンケートで評価を得ることが大切だと感じている。今年度の反省を来年度に活かす。

意見8:ホームページの評価は低いが、その他の個々への支援についての評価は高い。全体へ行き届かせるのは難しいが、個に対してのアプローチはできているということである。進路についても、全体に対する情報提供は必要だが、個への支援の評価が高いのでよい。体罰については答えにくい。大切なのは体罰がないこと、教職員が愛情をもって児童生徒に向き合うという評価があることだ。一人一人個に対応するのが特別支援学校のよさである。

意見9:保護者との関係性が良好なことは支援をするうえで大切である。進路について知りたいことをアンケートで聞くのはよい。

意見10:教職員が児童生徒へのかかわりをとても大切にしていること、保護者の学校への信頼度等から、あたたかい雰囲気のある学校であることが感じられる。

(2) 本校の特色について

- ・ 本校の「特色」とは何か。アンケート結果の「特色ある教育活動」がわかりづらいという点をふまえ、本校の特色をもう一度考える必要がある。本校の地域に根差した学校教育で活かせるようなアイデアを得て学校運営に生かしていきたい。

意見1:教職員がある程度以上の専門性をもっていて保護者が安心して子どもを育て、あずけることができる学校というのも特色である。本校の喫茶も特色のひとつだが、その後、新しく喫茶営業する学校との違いを出すために、本校は「味で勝負」することとし、地域の洋菓子店と連携を取った。地域資源を活かし、あるもので工夫することで特色が生まれると考える。

意見2:本校のイメージは、地域との繋がりという印象が強い。開校当時のこと等、原点に戻ると見えてくるかもしれない。高等部の生徒に本校のよいところをたずねたり、生徒自身が「こんな学校にしたい。」という思いを吸い上げて広げてみるとよい。

意見3:地域住民としては、高校が廃校になった時に人のいない心配や不安があったが、特別支援学校になることが決まり、人がいる安心感につながった。この学校を必要としている地域の保護者や児童生徒がいる。この学校があるだけでよい。優しい気持ちになれる学校であってくれればよい。チャイムが聞こえることがうれしい。(複数)

意見4:特色とは、「地域に根差した配慮をしてくれる特別支援学校」ではないだろうか。自分の事業所の特色を考えたときに、相談支援事業所だと〇〇障害に強いというのがあるが、うちの事業所は唯一〇〇市に強い、ということが特色。本校も事業所との連携がうまい。「地域の特別支援教育のことを相談するならここ、力になってくれる。」ということが特色になる。

意見5:特色は「もの」なのか、「見えない気持ち」なのか。見えるものの方が差別化を伝えるのはわかりやすいが、本校の今あるものを活用して特色としていけばよい。「岐阜本巣は先生と子どもの関係がよい。」「信頼関係があって、ここで教育受けさせたいという思いがもてる。」とか、環境のよさ(静かで集中しやすい、多くの教職員で一人一人を丁寧にみることができると)等を示せばよい。それが特色である。「もの」でわかりやすくというのであれば、柿とか地域の産物を活用するという方法もある。地域とのパイプを強くもつのもよい。(複数)

意見6:特色は無理につくるものではない。児童生徒、保護者が、この学校へ行ってよかったと思えることが特色ではないか。(複数)

意見7:この地域はある意味安全な場所である。昔からの地元の人がいって、知っている人が多い。学校周辺を歩く児童生徒を安全に見守ることぐらいしかできないが、地域として協力できることがあればやっていきたい。

意見8:地域の方には学校通信が配られている。居住地校区内に配るのは難しいが、ホームページを活用して、いつでも外部の人が見られるとよい。

⇒ 学校通信は年に5回、発行しており、ホームページにも掲載しているので、居住地校区にも案内できるよう工夫したい。

意見9:高等部に入学するにあたって「サッカー部があるところ」を希望した。部員が減少し、今年にはほかの学校と合同チームを作って参加しているが、子どものために保護者は部活への送迎でサポートしている。自分の子は「学校楽しい、学校に行きたい。」と言っている。これが一番の特色なのではないか。

(3) 作業製品価格について

意見1:チョコチップクッキー(1枚 100円)について、1枚だけがよいというニーズもあるだろうが価格と内容のバランスをもう少し検討するとよい。

意見2:スマホホルダー (1000円～)について、ひもの長さはもう少し長めがよい。大きさは、スマホ以外にも入れることができるサイズでちょうどよい。

6 まとめ

- ・学校評価アンケートの結果をふまえ、よい点、改善点等、本校の特色について多くの意見が得られた。今ある姿が特色であり、今後もさらに学習活動や地域との連携等、教職員が工夫しながら特色に磨きをかけていくことが大切だと改めて確認できた。今回の委員からの貴重な意見を全職員に周知し、教職員の専門性の向上に加え、児童生徒が「岐阜本巣はこんな学校だよ」と自信をもって言えるように努めたい。
- ・作業製品の価格については提案通りの承認を得た。